

★解答はすべて日本語文で書くこと。特に漢字表記は正字体(繁体字)または日本の当用漢字の字体のみを認め、簡体字は減点する。

一 次の図版は『文選』所収の曹植「七啓」の本文とその注(李善注)である。

注を参考にしつつ、(a)本文をすべて書き下し文にし、(b)本文の内容を日本語で解釈せよ。

鏡機子曰既游觀中原道遙閑宮情放志蕩淫樂未終
 亦將有才人妙妓遺世越俗漢書曰傳昭儀少為人
 遺離揚北里之流聲紹陽阿之妙曲史記曰紉使師消
 也之舞靡靡之樂淮南子曰夫歌采菱爾乃御文軒臨洞
 發陽阿鄭人聽之不若延靈以和二十一 馬曹判 楊玚
 庭文畫飾也軒殿檻也洞庭廣庭也尸子曰文軒無四
 也寸之鍵則車不行莊子曰黃帝張成池之樂於洞庭
 也新語曰高臺百琴瑟交揮左篴右笙廣雅曰揮動也
 何文軒彫窓也簾鍾鼓俱振簫管齊鳴詩曰簫管備舉然後姣人乃
 被文毅之華袿振輕綺之飄颻釋名曰婦人上服謂之
 袿戴金搖之熠燿揚翠羽之雙翹宋玉賦曰主人之
 戶西京雜記曰趙飛鸞為皇后其弟上遺黃金步搖
 長詩傳曰熠燿鮮明也司馬彪續漢書曰皇太后入廟
 先為花勝上為鳳凰以翡翠為
 毛羽王逸楚辭注曰翹羽名也

二 次の図版は四部叢刊統編所収『山谷外集詩注』の序巻末尾に付された識語である。全文を書き下し文にせよ(楷書体で解答すること)。

我亦所知山谷外集詩注
 吾輩以併外集故亦存本
 内集每以内外集未完為
 中外集等本史君密撰注
 與同志共其庶幾乎内外
 朕在困不得志先予之優
 也故云昔云云乙酉文江
 嘉慶拜手識歲月

三 次の六つの事柄、書籍、人物について簡潔に説明せよ(①〜⑥すべて解答せよ)。

- ① 和陶詩
- ② 『傷寒論』
- ③ 晁公武
- ④ 正倉院
- ⑤ 『荊釵記』
- ⑥ 淳化閣帖